要旨：日本と韓国の若者言葉 — 構造と造語法による分類を中心に —

金囁泳(同徳女子大学)

1. はじめに

変化する言語環境の中で特に「日本語の乱れ」とも言われている言語現象が存在するが、それは若者言葉である。また、そのような事情は韓国でもあまり変わらない。本発表では、このような日本の若者たちの流行語である若者言葉の造語法の特徴を詳しく分類し、韓国の若者言葉(급식체 グックシクチェ (給食体)とも)と比較・対照しつつ、その発生の原因及び傾向に関して考察を行いたい。

2. 問題提起と分析

今までの若者言葉の造語法に関するほとんどの先行研究は、省略(縮約)・派生など、「形式」を基盤とする造語法(e.g. 動詞派生：体言+ル, 神る)と、転義・もじりなど若者の集団内で共有する「情報」を基盤とする造語法(e.g. Bダッシュ)を区別せずに羅列している。しかし、発表者は若者言葉の造語法を考察する際に、このように両造語法を同じカテゴリとして括って扱うことには問題があると考えた。何故なら、若者言葉は「情報」と「形式」という二つの層位からなっていて、両者が混在しているようにも見えがちだが、その位相においてはお互い異なる点が存在しているからである。詳しくいうと、若者集団内で生まれて共有される概念或いは発想が「情報」になり、それが特定の「形式」に乗せられ、やがて実体を持つ「若者言葉」になる。問題は、その時、「情報」が主になって「形式」に発展する場合(或いは「情報」のみ, e.g. ロールキャベツ¹, 핑거 프린세스 フィンガー・プリンセス²)と、「形式」から「情報」が生まれる(或いは「形式」が「情報」そのものになる)場合(e.g. 「|나ㄹ나ㄹ레」=けいたい, 「언시1」=언니 オンニ(姉さん))という二通りが存在する点にある。本発表では前者を「コンテクスト」の造語法と、後者を「語構成」の造語法とする。つまり、「ロールキャベツ」「卍」「핑거 프린세스 フィンガー・プリンセス」のような若者言葉は既存の語彙をそのまま使っていて「語構成」における変化は全くないが、集団内のみで通用する新しい情報を与えた「コンテクスト」のみで生まれる一方で、「死ね」を分解して破字にした「タヒね・死ね」や先に述べた「けいたい」を「|나ㄹ나ㄹ레」のように表記したギャル語などの若者言葉は「語構成」の原理そのものが若者言葉の「集団語」としての性格を高めているのである。また、このような「コンテクスト」と「語構成」は、若者言葉が生まれるに際してそれが現れる「媒体」(e.g. ポケベル, パソコン, スマホ, SNS, 口語)による影響も受ける場合がある。例えば、「アップロード・up」のキーボード誤入力によって生まれた「うp・うぷ」, 「제발 ゼバル」の誤入力である「쩍라 ゼッラ」や携帯メールで見られるギャル語の「オヤス多：おやすみ」, スマホで見られる「ㅇ스³」などの若者ことばは媒体依存的であるといえよう。従って本発表では、先行研究を踏まえて、「コンテクスト」と「語構成」の造語法を中心として「媒体」という側面も考慮しながら日本と韓国の若者言葉の造語法を再検討した。

3. 結論

本発表では先行研究を踏まえて「若者言葉は10代後半から30代前後の若者で構成された集団によって流行り出した言葉」と定義し、若者言葉はその内容となる「コンテクスト」と形式である「語構成」が「媒体」による影響を受けながら「不透明性」を高めることで造語される点を明らかにした。それを踏まえて若者言葉の造語法の特徴を分類してまとめると、以下のようになる。

[若者言葉の造語法]

- a. 語構成の造語法：① 音の転換, ② 表記の転換 — 1) 文字, 2) 媒体の変化・技術依存, ③ 縮約, ④ 拡張, ⑤ 再配列, ⑥ 付けたし, ⑦ 派生 — 1) 動詞派生, 2) 形容詞派生, ⑧ 段階・繰り返し, ⑨ 言い換え, ⑩ オノマトペ
- b. コンテクストの造語法：⑪ 語呂合わせ, ⑫ 転用 — 1) 比喩, 2) 反語, 3) 方言, 4) 古語, ⑬ 態度, 1) 曖昧, 2) 新敬語, 3) 誇張, ⑭ 若者の文化 — 1) 有名人, 2) 流行, 3) 集団文化

¹ ロールキャベツ：外見はまるで草食系のように見えるが実際の本性は肉食系である人を例えている若者言葉。

² 핑거 프린세스 フィンガー・プリンセス：自分で調べずに、人にばかり聞く人を指す。

³ 인정(認定) インジョン という言葉の子音のみを取り出した「ㅇ스」で、「認定・認める」という意を表す。